

ハッピー通信

48

ハッピー通信では毎月、当社のオリジナル賃貸住宅「ハッピーマンション」「ハッピーマイホーム」の現オーナー様、もしくは検討中のオーナー様に、コンサルティング事業部の高橋がインタビューを行い、その後の経営状態やサービスに関する感想などをお伺いします。



高橋：本日は、いわき市内に多数の更地を所有されているE様にインタビューをさせていただきます。E様は、今後の資産の管理や承継について慎重にご検討されているとのこと。E様のこれまでのご努力とご計画により、充実した生活を送られていることに感服いたします。

E様：そんなことはありません。いわき市に貸していた土地も昨年戻ってきました。40年以上経った賃貸住宅は、住人の高齢化により空き家となってきています。今後、どうすればよいかを考えています。

高橋：E様の賃貸住宅はほとんどが一軒家で、集合住宅はありません。更地は駐車場として利用されています。このような資産構成になったのは、なぜでしょうか？

E様：父は借金を非常に嫌う人でした。それが、集合住宅を建てなかった理由だと思います。

高橋：40年以上前と比べて、周辺的环境も大きく変わりました。この地域は、いわき市内でも有数の住宅地になっています。3~5階建ての集合住宅も建ち、土地の坪単価も25万円程度と聞いています。40年前とは全く違いますね。

E様：固定資産税も大幅に増加し、年間で数百万円に達します。大切な資産を、どのように次世代へと託すかを慎重に考えています。

高橋：素晴らしいお考えだと思います。ご両親もお喜びでしょう。家を代々引き継いでいくことはとても大切なことです。そのためには、収益性の高い賃貸住宅は、家を継いだ方の重要な収入源となります。「ハッピーマンション」は家の繁栄を支える賃貸住宅の好例です。

家族構成の変化は、大きな課題です。どのように子どもや孫に資産を引き継ぐかは、誰しもが抱える悩みの種でしょう。しかし、これは被相続人にしかできない重要な決断であり、財産を受け継いだ人の責任でもあります。この考え方が「家訓」となるケースも少なくありません。

インタビューより一言

コンサルティング事業部
課長

タカハシ ミツル

高橋 光則



こんにちは、コンサルティング事業部の高橋です。大谷翔平選手の人気により、野球が再び注目されています。それに比べて、サッカー、バスケットボール、ボクシングで活躍する選手の報道は少ない気がします。そんな中でも、ボクシングの井上尚弥選手は別格の存在です。全世界的に英雄として称えられてもおかしくない活躍を見せています。彼の特徴は、試合中に相手に応じてスタイルを柔軟に変えられること。また、相手の動きを的確に分析する能力にも優れています。このような能力は、一流と呼ばれるアスリートに共通しているものだと思います。